

解 答	1 (C)	2 (B)	3 (A)	4 (C)	5 (B)	6 (C)
	7 (A)	8 (C)	9 (B)	10 (D)	11 (C)	12 (C)
	13 (B)	14 (B)	15 (A)	16 (D)	17 (D)	18 (B)
	19 (B)	20 (D)				

1. 「すみませんが、アナウンスが聞こえません。静かにしてもらえないでしょうか」

【助動詞】パターン

- ▶ 選択肢がすべて助動詞のパターンです。文法的には、疑問文で使われない(D)Mayを除いた3つとも空欄に入れることが可能です。この中から文意に合ったものを選ぶと、『依頼』を表す(C)Willが正解になります。

Will you ...? 「～してくれませんか」

Will you close the window?

(窓を閉めてくれませんか)

2. 「革のコートを着た男が急いでそのホテルから出てきた」

【動詞の形】パターン

- ▶ 選択肢は動詞wear(～を着ている)が変化したものになっています。このような場合は動詞の形を決定するヒントを問題文の中に探す方針で解きます。
- ▶ 問題文の述語動詞はcameですので、空欄に入る語はA manを修飾していると考えられます。現在分詞の限定用法となる(B)wearingを選べば「革のコートを着た(1人の)男」という意味になります。

3. 「ジョンとナオミは美しい夕焼けを見ている間、一緒にベンチに座っていた」

【前置詞vs接続詞vs副詞】パターン

- ▶ 選択肢に前置詞(during, as, with)/接続詞(while, as)/副詞(as)が並ぶパターンです。この場合は空欄の語が何と何をつなぐ働きをしているかを考えます。
- ▶ 空欄のあとは分詞構文(they were) watching the beautiful sunset(美しい夕焼けを見ながら)という節になっているので、節をつなぐ働きをする接続詞(A)whileが正解になります。

4. 「メアリーはここに来るまで、フランスで教師をしていました」

【時制】パターン

- ▶ 選択肢はbe動詞の時制が変化した時制パターンです。時制パターンでは問題文の中に時制を決定するヒントを探す方針で解いていきます。
before she came hereという従属節から、Maryを主語とする主節は「彼女がここに来た」という過去の1点を基準に、その時以前を表していると考えられます。よって、過去完了形である(C)had beenが正解になります。

5. 「このテニストーナメントでは何度も優勝しているのだから、君はさらに挑戦しがいのある別の場所でプレーすることを考えるべきです」

【動詞の形】パターン

- ▶ 選択肢には動詞win(優勝する)を変化させたものが並んでいます。まず、空欄が文頭にあることから述語動詞の語順である(C)Had wonと(D)Will winを入れることはできません。
残った選択肢はどちらも文法的に入れることが可能ですが、already(すでに)より、理由を表す分詞構文となる(B)Having wonを選べば文意にも適合します。

■ 分詞構文の完了形

文の述語動詞の表す時よりも以前のことを分詞構文で表現する場合は、分詞を〈having + 過去分詞〉の形にします。

Having read the novel, I already knew the ending of the movie.

(原作を読んでいたのだから、私はすでにその映画の結末を知っていた)

6. 「ダイスケは彼女からデートの時間に30分遅れるというメールを受け取った」

【動詞の形】パターン

- ▶ 選択肢には動詞say(～と述べる)の変化したものが並んでいます。英文の構造を把握すると、S=Daisuke, V=received, O=a text messageで, from以下はa text messageを修飾しています。(A)saysと(D)has saidは述語動詞の形なので空欄に入れることはできません。
- ▶ (B)said(～と言われている)と(C)saying(～と言っている)はa text messageを修飾する分詞と考えられますが、a text messageとsay that ...には能動の関係があるので(C)sayingが正解になります。

7. 「あなた小包は2週間以内に届けられるでしょう」

【前置詞】パターン

- ▶ 前置詞パターンでは、まず①空欄前後に特定の前置詞と結びつく熟語を探し、次に②文脈に相応しい意味をもつ前置詞を選ぶ方針で解いていきます。
- ▶ 空欄を含む熟語はなさそうなので、文脈に合うものを選びましょう。荷物の配達にthe next two weeks(今日からの2週間)の間に行われるので(A)within(～以内に)が最適です。

deliver A to B 「A(手紙・小包・品物など)をB(人)に配達する」

We will *deliver* the flowers *to* your mother for you.

(あなたに代わって私どもでお母様に花をお届けいたします)

8. 「今年の柔道の授業は教師が予想したよりずっと多くの参加者がありました」

【比較】パターン

- ▶ 空欄のあとにthan the teacher expectedとthanがあるので、空欄には比較級が入ると推測できます。

空欄に入る語は可算名詞の複数形participantsを修飾しているので、数が多いことを表すmanyを用いた(C)many moreを選びます。

many more + 複数名詞 + than ... 「…よりずっと多くの～」

- ▶ 比較級の強調にはふつうmuchを用いますが、「数はずっと多い」の意では、much more～ではなく、many more～の形をとります。

There are *many more* ways of doing this *than* you might imagine.

(あなたが想像しているよりこれをする方法はずっと多くあります)

9. 「図書館で本を借りる人は誰もが学生証の提示を求められます」

【主述の一致】【態】混合パターン

- ▶ 選択肢から本問では受動態における主述の一致が問われていることが推測できます。anyoneはanybodyと同じく単数扱いなので(C), (D)は正解候補から外れます。空欄に続くshow a student cardにつながるには不定詞句となる(B)is required toを選びます。

require A to do 「A(人)に～するよう命ずる, 要求する」

All passengers are *required to* show their tickets.

(乗客の皆さまの切符を拝見いたします)

10. 「会議のあと、出張について話す時間はじゅうぶんにとれないでしょう」

【修飾】パターン

- ▶ 空欄に入る語は直後にある名詞timeを修飾していますので、副詞的に使われる(B)a lot(ずいぶん, たいそう)は誤りです。残る3つはすべて形容詞ですが、問題文がnotを含む否定文であるので準否定語である(A)little(ほとんどない)や(C)some(いくらかの)は使えません。よって、残った(D)enough(じゅうぶん)が正解になります。

11. 「この森林におけるほとんどの樹木はマツ科に属しています」

【文脈(動詞)】パターン

- ▶ (D)group(群がる)を除くすべての選択肢がtoにつながる自動詞です。このような場合は文意に最も相応しいものを選ぶ方針で解きます。

- ▶ (A)join to A(Aとつながる)、(B)fall to A(Aに落ちる)、(C)belong to A(Aに所属する) という意味なので、(C)belongが正解になります。

[例] Dolphins *belong to* the whale family.
(イルカはクジラ科に属する)

12. 「私はマーサが会議を退席するのを見ていませんでした。私は注意を払っていませんでした。」

【文脈(動詞)】パターン

- ▶ 選択肢はすべて他動詞用法をもっています。空欄直後に目的語attention(注意)があるので、文法的にはどれも入れることが可能です。このような場合は文意にもっとも相応しいものを選ぶ方針で解くのが定石となります。
- ▶ pay attention (to A)で「(Aに)注意を払う」という意味になるので、(C)payingが正解になります。

□ pay attention to A 「Aに注意を払う」 (= take notice of A)

Nobody seems to have *paid attention to* what he said.

(誰も彼の言うことに注意を払っていませんでした)

13. 「先生はジョンに君のレポートは興味深いが、不注意なスペルミスが多いと告げた」

【文脈(形容詞)】パターン

- ▶ 空欄に入る語はあとに続く spelling mistake(綴り字の誤り=スペルミス)を修飾しています。選択肢は全て形容詞ですので、文意に最も相応しいものを選ぶ方針で解いていきます。
- ▶ 選択肢は(A)wrong(誤った)、(B)careless(不注意な)、(C)forgetful(忘れっぽい)、(D)inaccurate(不正確な)という意味です。(A)と(D)はmistakesと意味が重複するので(B)carelessが正解になります。

14. 「イチローはアロハシャツを製造する新しい会社を設立しました」

【文脈(動詞)】パターン

- ▶ a new company(新しい会社)という目的語が続いているので、空欄には他動詞が入ることが推測できます。選択肢はすべて他動詞で文法的にはどれを入れることも可能ですから、文意に最適なものを選ぶ方針で解きましょう。
- ▶ 選択肢は(A)assemble(～を集める/～を組み立てる)、(B)form(～を結成する/～を組織する)、(C)construct(～を建設する)、(D)produce(～を生産する)という意味です。会社という組織を作るのですから(B)formedが正解になります。

[例] That company was *formed* in 2000.

(その会社は2000年に設立された)

15. 「その医師は彼女の実験で使う人を何人か選びました」

【語法(動詞)】パターン

- ▶ 本問では空欄に続く「目的語(some people)+to不定詞(to use)」がポイントになります。(D)search以外すべて「SVO to do」の語法を持ちますが、some peopleはto useの意味上の目的語になっているのでselect A to do(～するようなAを選ぶ)という意味をもつ(A)が正解になります。(B)ask A to do(Aに～するように頼む)や(C)decide A to do(Aに～することを決心させる)ではA(=some people)がto不定詞の意味上の主語になっています。

□ select A to do 「～するようにA(人・物)を選ぶ」

I was *selected to* negotiate with the terrorists.

(私はテロリストと交渉するようにと選ばれた)

16. 「レイナは風邪から回復して、今では元気です」

【他動詞vs自動詞】 【語法(動詞)】 混合パターン

- ▶ 直後に目的語がないので空欄には自動詞が入ると推測できます。自動詞の用法を持つものは(B)healedと(D)recoveredで、ともに「(病気や傷などが)治る」という意味を持っていますが、heal(癒える)は主語に人を取らないので(D)recoveredが

正解になります。その他の選択肢は(A)overcome(～を克服する)、(C)cure(～を治療する)という他動詞です。

□ **recover from A** 「A(病気など)から回復する」 (= get over A)

He has fully *recovered from* his injuries.

(彼は完全に怪我から回復した)

17. 「日本を訪れる外国人の数は毎年増え続けています」

【文脈(句動詞)】パターン

- ▶ 本問は空欄に続く副詞upの存在がポイントになります。選択肢のうち(B)increaseを除いた3つは「動詞+up」で句(群)動詞を作るものになっているので、それらの句動詞から文意に相応しいものを選ぶ方針で解いていきます。
- ▶ それぞれupを加えた句動詞の意味は(A)grow up「成長する」、(C)rise up「(煙・風船などが)上がる」、(D)go up「(価格・価値・数量の点で)高くなる、増える」となりますので、(D)goingが正解になります。

18. 「今年、ファロー・トラクター会社は200万ドルの利益を上げました」

【文脈(名詞)】パターン

- ▶ 選択肢は(A)salary「給料」、(B)profit「利益」、(C)revenue「総利益」、(D)benefit「利益」という意味で、訳語を空欄に入れて考えても迷うばかりです。このような場合は語法や英語特有の表現(コロケーション)がポイントになっていないかヒントを探してみます。
- ▶ 空欄前のmake aを含めて「**make a + 名詞**」という言い回しができないかと考えると、make a profitで「利益を上げる」という表現が英語として自然なので(B)profitが正解になります。

□ **make [turn, earn] a profit of A** 「A(金額)の利益を上げる、儲ける」

I *made a profit of* \$10,000 on the deal.

(私はその取引で1万ドル儲けた)

19. 「カズは歯科医師になるという宿願を叶えるために、何年間も熱心に勉強しました」

【他動詞vs自動詞】パターン

- ▶ 直後にhis ambition(彼の宿願)という目的語があるので、空欄には他動詞が入ると推測できます。まずは選択肢の中から自動詞を除外しましょう。自動詞は(A)proceed「続ける、進む」、(C)succeed「成功する」の2つです。
- ▶ 残った2つの他動詞は文法的に空欄に入れることが可能ですので、文意に合うほうを選びましょう。(B)realize「～を実現する/～を理解する」、(D)obtain「～を手に入れる」のうち文意に合うのは「宿願を実現する」という意味になる(B)realizeで、これが正解になります。

□ **in order to do** 「～するために/～するように」 (= so as to do)

- ▶ 不定詞が『目的』であることをはっきり示すための文語的表現です。

I decided to watch TV programs for children *in order to* learn English.

(私は英語を学ぶため子供向けのテレビ番組を見ることにした)

20. 「カオリは名古屋市の大気汚染を減らすための提案を思いつきました」

【文脈(句動詞)】パターン

- ▶ 選択肢には「動詞+up」の句動詞が並んでいます。本問では空欄直後のwithを含めた「**動詞+up+with**」の3語で1つの動詞の働きをするものを選びます。
- ▶ withを含む句動詞を作るものは(A)make up with A「Aと仲直りをする」、(D)come up with A「Aを思いつく」の2つです。このうち文意に合うのは「ある提案を思いつく」となる(D)come upで、これが正解です。なお、(B)work up(昇進する)は自動詞、(C)はthink up Aで「Aを思いつく」という意味でwithが不要なので不可です。

□ **come up with A** 「A(考えなど)を思いつく/見つける/提案する」

He *came up with* a really creative solution to the problem.

(彼はその問題に対する非常に独創的な解決法を見つけた)